



住吉小だより

<http://www.fuchu12s.fuchu-tokyo.ed.jp/>

電話 042-361-6319

FAX 042-334-0873

府中市立住吉小学校
校長 木下 和紀
令和5年4月28日
令和5年度 第2号

信じて任せる

副校長 進藤 智洋

新年度が始まって3週間が経ちました。子供たちにとってのこの期間は、新しい学年となり、新しい友達や先生との出会いがあり、緊張感がありながらも、お互いのことを知り、少しずつ新しい関係性を築いていた4月だったようです。

さて、みなさんは先日行われた「ワールド・ベースボール・クラシック (WBC)」をご覧になられていたでしょうか。日米で活躍している大谷 翔平選手や佐々木 朗希 選手などが、侍ジャパン(日本代表)の一員として躍動し、世界一に輝く軌跡に熱くなった方も多くいらっしゃると思います。



いろいろな代表選手が注目を集める中、その侍ジャパンを率いた栗山 英樹 監督の手腕にも脚光が当たりました。ご存じの方も多いかと思いますが、栗山さんは教員免許をもっており、プロ野球選手を引退後は、大学の教員を務めている教育者でもあります。

よく相手のことを「信じる」という人はいますが、栗山監督のように「任せきる」ことはなかなかできることではありません。そして任せたからには、周りからどんなに批判的な意見をもらっても、責任は自分が取るという姿勢を貫いていました。

その栗山さんの言動や姿勢から私たちが学ぶことはないでしょうか。「教員から児童へ」「保護者からお子さんへ」など、あれこれと上から指示を出してやらせるのではなく、進むべき方向性を示して考えるきっかけを与えたり、一步を踏み出す後押しをしたりして、下から支えていく。失敗しても責任は大人がとることを約束し、決して子供たちを責めないから安心して挑戦できる。そんな環境を整えていくことで、未知なる課題にも果敢に取り組もうとする子供たちを育てられるのではと私は思いました。

選手たちは重圧や緊張感の中でも、成功する、勝つことだけを考えてプレーに集中することができました。そういう姿が野球を純粋に楽しんでいるように見えたのだと考えられます。

住吉小学校に通う児童には、安心感をもてる雰囲気や体制を整え、一人一人の個性が輝き、良さが発揮されるように努めてまいります。